
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 72

2011.1.16 (日)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今月の日本の海」 沖縄島残波岬

沖縄県の沖縄島西海岸中央部読谷村にある残波岬は、知る人ぞ知る観光の名所である。東シナ海に向かって突きだした岬の先には、美しい海が広がり、琉球石灰岩の高い崖が長さ2km にわたって連なり、その景観を引き立てる。この岬が 66 年前に激しい米軍軍艦の砲撃によって形も変わったと言われるほどの戦争を経験したとは思えない静かなたたずまいを



見せている。多くの観光客で賑わう岬の対岸には巨大なリゾートホテルが建ち、海には若者たちの水上バイクが騒音をたてる。海の中のサンゴ礁もかつての面影はなくなってしまった。

(沖縄島残波岬にて 向井 宏撮影)

目次 「今月の日本の海」 沖縄島残波岬

1. 海の生き物を守る会活動予定
2. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 事務局便り
5. 編集後記

1. 海の生き物を守る会活動予定

●「海の生き物を守る」講演会および写真展のお知らせ

守りたい 上関・諫早・辺野古の海

みんなで、海の埋め立てを止めさせましょう！

講演会：1月30日（日）13:30～16:10 （13:00開場）

写真展：10:30～13:30 （講演会の休憩中もご覧いただけます）

会場：ハートピア京都（京都府立総合社会福祉会館）第5会議室

講演：

「瀬戸内海の最後の楽園 長島」 高島美登里さん（長島の自然を守る会代表）

「諫早湾の干潟復元の意義」 佐藤正典さん（鹿児島大学教授）

「辺野古・大浦湾の海の生き物」 安部真理子さん（日本自然保護協会）

参加費：無料 定員：50名（先着順）

期待を抱かせた政権交代であったが、新しい政治はかならずしも海の生き物を守ることに繋がってきてはいないようです。昨年11月に行われた生物多様性条約のCOP10で日本政府は多様性保全に積極的に取り組むと表明したにもかかわらず、その足元ではいまでも貴重な海の自然と生きものが危機に瀕しています。「海の生き物を守る会」では、昨年末に「パタゴニア」からいただいた助成金をもとに、1月30日に現在、緊急の課題となっている上関、諫早、辺野古の海に関する講演会を行います。多くの人の参加を歓迎します。会場は座席が50名分しかありません。13時に開場です。早めにおいでください。50名を超えると立ち見席になります。

「海の生き物を守る」講演会と写真展

守りたい

上関・諫早・辺野古の海



- ・ とき:2011年1月30日(日) 写真展:10:30~13:30 講演会:13:30~16:10
- ・ ところ:ハートピア京都(京都市立総合社会福祉会館) 地下鉄丸太町駅と並び
- ・ 講演
- ・ 1. 瀬戸内海の最後の楽園「長島」 高島美登里(長島の自然を守る会代表)
- ・ 2. 諫早湾の干潟復元の意義 佐藤正典(鹿児島大学教授)
- ・ 3. 辺野古・大浦湾の海の生き物 安部真理子(日本自然保護協会)

入場無料
定員50名(先着順)



主催:海の生き物を守る会

海の生き物を守る会 2010年度総会のお知らせ

上記講演会の終了後、同じ場所で海の生き物を守る会の総会を行います。会員と入会希望者はぜひ出席して下さい。16:20~17:00の予定です。

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【国際】

●異常気象で? 鳥や魚が大量死 世界各地で

年末から年始にかけて世界各地で鳥や魚などの大量死が各地で報告されている。北米だけで最近8ヶ月で95件の大量死が報告されている。アメリカ南部のアーカンソー州では、4000~5000のムクドリモドキが路上で死んでいるのが発見されたほか、川でも大量の魚が死んで浮いているのが発見されている。ワシントン州のチェサピーク湾では、小型の魚が約200万匹も死んでいるのが見つかった。死んだ魚はニベの仲間の幼魚が中心という。当局は異常気象の冷え込みで海水温が急激に低下したことが原因と見ている。また、南ルイジア

ナ州でも500羽の鳥が集団死しているのが見つかった。アメリカ以外でも、ブラジルでは魚が、イギリスでは大量のカニが、スウェーデンでも大量の鳥が死んでいるのが見つかった。専門家は「世界の終末の前触れではないから心配ない」と言っているらしいが、やはり心配である。生きものの世界で何が起きているのだろうか。

●鉄鋼スラグでサンゴ礁再生?! 外国にも輸出

JFE スチール社は鉄鋼製造工程でできる鉄鋼スラグを用いて、ガラモ場の造成用のブロックを製造し、すでに国内で33ヶ所に設置している。今度はこの鉄鋼スラグブロックをサンゴ礁造成用として初めて国外に輸出することに成功した。サンゴ再生の実証実験を行うのは、インドネシア・スラウェシ島北端。使用するブロックは、鉄鋼スラグに二酸化炭素を吹き込んで固化させたもので、サンゴや貝殻と同じ主成分を持つという。鉄鋼スラグを有機物と混ぜてブロックにしたものを海に入れて、植物プランクトンや海藻が光合成に必要な鉄イオンを供給するというふれこみで、日本各地の海に産業廃棄物の鉄鋼スラグを入れる試みが続いているが、今度はサンゴ礁の再生だという。サンゴには共生藻類がいて、光合成を行っているので、鉄イオンが必要だろうというのが理由なのだろうが、本当に効果があるのだろうか。サンゴ礁があるような熱帯の海は貧栄養であり、鉄イオンが欠乏しているからサンゴが育たないのではないはずだ。むやみに鉄鋼スラグを世界の海に入れることは、控えるべきではないか。海で鉄鋼スラグが変質して有毒な物質が溶出するという研究結果もある。

【全国】

●ウニをモデルに難病のメカニズムを解明 三崎臨海実験所

東京大学三崎臨海実験所の赤坂甲治教授らは、ウニの発生の仕組みを研究して人間の難病「ムコ多糖症」や「異染性白質ジストロフィー症」のメカニズムを説き明かすことに成功した。新しい治療法にも繋がると期待されている。ウニのような海産動物をモデルにした基礎研究が医学にも波及効果をもたらすことができることを示したと言えよう。近年、海洋生物学者の基礎研究がノーベル賞を受賞するなど、海洋生物の研究が世界的に注目を集めるようになってきた。海の生き物を知ることは、私たちの幸福にも繋がっている。

●日本人の鯨肉離れ進む 昨年8月在庫、6千トン超

フリージャーナリストの佐久間淳子さんが、イルカ&クジラ・アクションネットワークとともに水産庁が公表している国内の倉庫にある鯨肉の在庫量などをもとに、全国の在庫量を推定した結果、昨年8月末の時点で、6千トンを超えているらしいことがわかった。この値は過去最高の在庫量になる。日本が南極海などで行っている調査捕鯨で捕獲した鯨の肉は、販売して翌年の調査捕鯨の費用に充てることになっているが、ここ最近、日本人はクジラ肉を敬遠するようになったらしく、在庫は増えるばかりだった。毎年8億円の国の補

助が出されている一方、鯨肉の横流しなど不透明な内容が多い日本の調査捕鯨であるが、販売においても調査捕鯨の計画見直しを求める声が高まってきている。

【関東】

●小・中・高校に海洋教育を 東大がプロジェクト

東京大学は、日本財団、海洋政策研究財団と連携して、小・中・高校の教育に海洋教育を普及させることを推進するためと、政策提言を行うために、「海洋教育促進研究センター」を発足させた。東京大学は日本財団の助成を受けて学内に「海洋アライアンス」という研究・教育機構を設立しているが、このセンターはその機構の中に置かれる。センターの中に、海洋教育政策学ユニットと海洋人材育成学ユニットを設置して海洋教育を進める。現在の初等中等教育には海洋のことを教える課程がなく、臨海学校さえも小学校の教育から消えてしまっている。子供たちは海の生き物に出会う機会も奪われている。

●熊さんの標本を遺族が寄付 古巣の三崎臨海実験所へ

神奈川県油壺の東京大学三崎臨海実験所で採集人として働き、多くの新種やオキナエビスなどの貴重な海産生物を採集して世界に「熊さん」の名をはせた青木熊吉さんが集めた海産生物の標本が、このたび古巣の三崎臨海実験所に遺族の手によって寄付されることになった。これらの標本は、青木さんが亡くなった後も、遺族によって大切に守り続けられてきたもの。青木熊吉さんの孫の田中美恵さんは、77歳になった昨年、将来を心配して標本を大学に寄付することに決めた。標本はホルマリンに浸かったシビレエイ、巨大なゴカイのオニイソメなど。標本を受け取った三崎臨海実験所では、熊さんの功績をたたえるために、玄関ホールなどに特別に展示を予定している。

●小笠原沖で新種のカイメン シンカイハナビ属

2008年に小笠原沖で行われた調査船「なつしま」の無人潜水機「ハイパードルフィン」による調査で、深海性のカイメンが採集された。東大三崎臨海実験所の伊勢優史特任助教らが調べた結果、シンカイハナビ属の二つの新種として学会に発表した。カイメン類は、一般に海水を取り込んで水に懸濁している有機物粒子を食べているが、シンカイハナビ属はほかのカイメン類と異なり、体表やそこにある突起を使ってプランクトンなどの微小な生物を捕らえて食べる肉食性海綿と呼ばれている。新種とされたのは、モップのような形をして体長8cmで調査船の名前から名付けた「アビソクラディア・ナツシマエ」と、体長2cmで魚の背骨に似て、発見場所の「明神海丘」にちなんだ「アビソクラディア・ミョウジンエンシス」の2種。

●相模湾の砂浜侵食 行動計画を作成 「山から海への砂の流れを確保」へ

相模湾の各地で砂浜が全般的に消失を続けている問題で、神奈川県は今後10年間の侵食対

策の具体案をまとめた。県は2006年度から調査を実施してきたが、侵食対策として砂の流れの連続性を重視する姿勢を打ち出したのが、今回の実行計画の特徴とされる。実効計画案では、各海岸をA,B,C,Dの4段階に分類し、それぞれに違った対応をすることになっている。Aは「侵食傾向で波消し機能も不足」、Bは「安定傾向だが波消し機能が不足」、Cは「侵食傾向だが波消し機能は有る」、Dは「安定傾向で波消し機能も有る」海岸として、その対策にA海岸には「計画的養浜を主とした砂浜の回復」、Bには「護岸改良と近隣での砂の移動（砂リサイクル）などによる砂浜の保全」、Cには「維持的養浜による侵食防止」、Dは「砂リサイクルなどによる砂浜の保全」といった基本方針を定めた。

もっとも深刻なA海岸とされた茅ヶ崎海岸は、相模川に建設されたダムの影響や茅ヶ崎漁港の建設の影響で砂の供給が無くなり、1954年から約30年で、60mほども海岸線が後退した。ここでは、1年に3万m³の砂を入れて養浜し、現在10mほどの砂浜を50mにまで広げる計画になっている。

もっとも肝心の砂の流れを回復し砂の供給をどうやって確保していくかについても、計画案では、砂浜を回復・保全するために、「山から川、海へとつながる流砂系の確保に努める」といった基本理念を設定した。長期的視点での取り組みとして、浚渫をしたダムの土砂を河川の下流に置いたり、土石流対策の堰堤（砂防ダム）をすきまのあるタイプにしたたりして、流砂系を健全にすることなどを打ち出している点は、県の対策としてはこれまでにない画期的なものと評価できる。

【東海】

●ヤマトシジミ復活か？ 市民団体が河口堰の影響調査

愛知県の長良川河口堰建設の影響を調査している「しじみプロジェクト・桑名」の市民たちは、1994年から毎年1~3回、河口堰下流でシジミの生息状況を調査してきた。これまでは、鋤簾（じょれん）で掬った川底のヘドロ5kgの中に10個以下のシジミが発見される程度であったが、昨年12月に河口堰下流500mの地点で行った調査では、ヘドロ20kgの中から335個のヤマトシジミが発見された。河口堰建設以来初めてのことで、ヘドロが溜まった川底で多くのヤマトシジミが生きていたことに驚きと喜びの声が上がった。最近、河口堰でゲートの一部を7~80cm引き上げて、河口堰で貯められた水を一気に流す「ゲートのフラッシュ操作」が行われていることが河川環境がやや改善されている原因と指摘されている。諫早湾と同じように、長良川河口堰も常時開門をして海水を導入し、健全な河口域生態系を回復させたい。

●名古屋水族館に売られたシャチ「ナミ」が死亡

動物保護団体などが反対する中で、和歌山県太地町から名古屋港水族館へ売られたシャチの「ナミ」が、1月になって衰弱して死亡した。名古屋港水族館に移動してまだ半年、新しい環境に慣れるまもなく、「ナミ」は病気になって死亡した。名古屋港水族館が「ナミ」の

購入に支払った金額は約 8 億円と言われている。シャチやイルカを捕獲して世界の水族館に売り飛ばして儲けている太地町は、どう思うのだろうか。

【中四国】

●上関原発 埋め立て工事の台船 引き返す

ブイを数基設置して、中国電力が埋め立て工事開始宣言を出してから 1 年 3 ヶ月が過ぎた上関原発建設予定地の山口県上関町長島の田ノ浦では、祝島の住民、虹のカヤック隊、長島の自然を守る会などの抗議行動が続いている。中国電力では、昨年秋から毎月のように埋め立て工事を行うための工事台船を予定地に向かわせているが、祝島の漁船が取り巻いて抗議を続け、数日して引き上げるという状態が続いている。今月も 11 日にクレーン台船 1 隻が工事予定地周辺に設置したブイの取り替え作業に向かったが、祝島の漁船によって取り囲まれ、作業をあきらめて港に帰った。埋め立て工事そのものは 4 台の作業台船が同時に現地に行く必要があり、それにはかなり無理をしなければならず、埋め立て許可の完了期限が今年末に迫る中、中国電力は焦りの色を見せている。

●山口県が電源立地交付金申請 周辺市町村が要求

山口県上関町に中国電力が原発建設を計画している問題で、県は予定地周辺の柳井市、光市、周防大島町、田布施町、平生町を対象として、国の電源立地地域対策交付金の申請を行うと発表した。交付総額は約 86 億円と推定されている。原発周辺地域への交付金は、県が配分を決めることになっている。これは周辺市町村が県に交付金申請し、配分額を決めて欲しいと要求したことで、県が手続きを進めることを決めた。上関町には国から直接交付金が出される予定。上関町は、交付金を独り占めするために周辺市町村との合併を拒否してきた。交付時期は原則として本体工事着工から運転開始後 5 年までの間で、受領する市町村が任意に設定できることになっている。原発建設に当初反対してきた周辺市町村だが、お金が目の前にぶら下がると反対の初志はどこかへいってしまったらしい。

●中海のサルボウガイを再生へ

島根県では、かつて日本一の水揚げ量のあった中海のサルボウガイを昔の状態に回復させるために本格的に対策に取り組むことになった。中海は淡水化計画や干陸計画があったが、大型公共事業の初めての中止の決断をして、国営中海土地改良事業を 2015 年度までで完了させることとなった。この事業の完了に伴い、県では中海の水産資源の復活や有効利用で「豊かな中海」を取り戻すことに本腰を入れることになったもの。しかし、昔の中海の環境は回復しておらず、一部で改善は見られるものの、サルボウガイの稚貝放流を従来の 50 倍に増やすという計画も、サルボウガイの生息環境の回復のないままでは、実現は疑問である。

●福山市 鞆の浦埋め立て事業費計上

広島県福山市の鞆の浦で、福山市が進めている鞆港埋め立て・架橋計画について、反対する住民からの訴えを広島地裁が認めて、県に埋め立て許可を出さないように命じた。その後、推進派と反対派がそれぞれの立場から主張を繰り返してきた。埋め立て工事推進を図る福山市は、あらためて2011年度予算で埋め立て・架橋関連工事費用を予算に計上することを決めた。停滞している同計画をこれからも推進する姿勢を明らかにしたもので、共同事業主体の広島県も、来年度予算に関連事業費を計上する予定である。福山市が計上した関連予算は、埋立区域の護岸整備、埋め立て予定地の希少種スナガニを移すための人工海浜の造成などの工事予算。市と県は、埋め立て免許申請を行った2007年度に初めてこれらの予算計上を行ったが、これまでは免許の前提となる国の認可が得られていないことから、これまでは執行できていない。

●黄金色のオニオコゼ捕獲 広島湾

広島県江田島市大柿町の長島沖で、黄金色のオニオコゼが捕獲され、話題になっている。大柿町の漁師が水深40m付近で刺し網で捕獲したもので、体長は約30cm。オニオコゼは海底の色に紛れてしまうような色だが、このオニオコゼは黒い色素が発現しなかったらしい。目立つ色で、餌の魚にもすぐ見つかってしまいそうだ。

●国指定天然記念物のコクガン 吉野川河口に飛来

国の天然記念物であるコクガンが、徳島県吉野川の河口に飛来して、カモなどの鳥に混じって河口干潟のアオサなどを食べているのが、観察されている。コクガンは小型のガンの仲間で、体は全体に黒く首に白い輪があるのが目立った特徴で、シベリアなどから冬に越冬のために飛来する。吉野川河口は渡り鳥の中継地としても重要な場所で、コクガンを観察した人たちは、吉野川河口を保護していかねばと考えている。

●人工海浜でルイスハンミョウの保護を

徳島市の徳島大学工業会館で、フォーラム「子供たちと育む浜辺の環境」が徳島県運輸政策課によって開かれ、徳島市マリニピア沖洲に徳島県が造成した人工海浜の活用や希少種の保護をどう進めるかについて話し合われた。約30人が集まった。県の担当者が、人工海浜に出現した希少種ルイスハンミョウの生息状況を説明した。それによると、ルイスハンミョウは毎年増加しており、2010年度は前年より24匹多い40匹が観察された。昨年3月にこの人工海浜を一般に開放したが、ルイスハンミョウの幼虫の生息場所を立入禁止にしたため、ルイスハンミョウの生息環境は十分保たれているという。

●高校生 お堀の魚類生息調査 4魚種確認

徳島科学技術高校の海洋総合コースと海洋科学コースの生徒たち 10 人が、徳島市内の中央公園のお堀に棲む魚類の調査を行っている。お堀は、助任川や新町川と繋がっており、また海水も上がってくる汽水環境にある。多くの種類が棲んでいる可能性があるところで、市民に身近な環境に関心を持ってもらうのが目的という。しかし、昨年夏と今年冬の 2 回の調査では、ボラ、チヌ（クロダイ）、セイゴ（スズキ）、ハゼの 4 種を確認したにとどまった。調査に参加した生徒は、魚を捕まえるのは大変難しい。生きものに関心を持って堀を眺めたことはこれまでなかったので、こんな魚が棲んでいるのを知らなかったと話していた。確認した魚のイラストを描いて、看板を作る予定である。こんな形で、海の生き物に関心を向ける試みは、生徒たちの今後の成長にも大きな影響を与えることだろう。

【九州】

●有明海沿岸高速道路を要望 鹿島など4市町

佐賀県鹿島市、嬉野市、白石市、太良市が、古川佐賀県知事に有明海沿岸の高速道路に早期に着工することなどを要望した。有明海沿岸自動車道は、佐賀市～旧福富の約 20km が一部着工しているが、それ以西では事業の見通しも立っていない。また、鹿島～諫早間については、候補にもなっていないため、候補路線指定を申し入れた。4 市の市長らは、「有明海がぐるりとつながれば、有明海の再生と発展につながる」としているが、果たして自動車道ができれば、有明海の再生につながるだろうか。このあたりは海岸線に有明海の干潟が広がる地域だ。そこに自動車道を造ることは有明海の再生を言っている佐賀県政の方針に矛盾することにならないだろうか。

●諫早干拓開門で 県が国に質問状

長崎県諫早湾の干拓事業における潮受け堤防排水門を長期開門するよう求めた福岡高裁の判決を受け入れることを決めた間直人首相に、長崎県知事は、公開質問状を提出した。質問状では、説明がないままに首相が上告を断念したことに不満を表明し、判決をどう受け入れ、農業や漁業、防災、自然環境への影響について、どのような具体的な対策を考えているかなどをたずねる。菅首相の判断を受けて鹿野道彦農水相は、中村長崎県知事に説明するために面会を申し込んでいるが、知事は会うことを拒否している。これは菅首相が唯一政治主導で公約を守ったと言われているもので、ぜひとも潮受け堤防の長期開門を実現し、さらに潮受け堤防の撤去につなげて、諫早湾干潟の一部復活までつなげて欲しいものである。

●カンムリウミスズメ幼鳥を確認 九十九島でも繁殖か

山口県上関原発の建設予定地の周辺で繁殖している可能性が高く、話題を呼んでいる国の天然記念物で絶滅危惧種のカンムリウミスズメの幼鳥が、長崎県九十九島の沖合で初めて確認された。カンムリウミスズメは 2008 年以来毎年のように親鳥が見つかっているが、幼

鳥が発見されたのは初めてのこと。九十九島のどこかで繁殖しているのではないかと期待されている。カンムリウミスズメは、ペンギンに似た海鳥で、日本の固有種。宮崎県の枇榔（びろう）島や伊豆諸島の岩礁など人のいない離島で繁殖していることが知られ、生息数は世界で5000羽程度。絶滅が危ぶまれている。最近では、既知の繁殖地以外に初めて瀬戸内海の上関周辺でも幼鳥が確認され繁殖地があることがほぼ間違いないと見られており、原発建設によって繁殖地が破壊されることが危惧されている。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【東北】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

日時：2011年1月30日（日曜日）

場所：宮城県気仙沼市塚沢72 ([地図](#))

衣・食・住これからのエネルギーを考える「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会 in 気仙沼

【会場】旧月立小学校（八瀬・森の学校） 気仙沼市塚沢72

【参加費】1000円

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」上映実行委員会

【問合せ先】菊田省一 0226-27-2036 tama-cat@k-macs.ne.jp

●「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋トークと公開録音 in 十和田

日時：2011年2月6日（日曜日）

場所：青森県十和田市西三番町2-1 ([地図](#))

【会場】十和田市民文化センター2FAV 総合研修スタジオ／十和田市西三番町2-1

【プログラム】第1回上映10:00／第2回上映13:00／第3回上映17:00 ※1, 2回目上映後トークタイム、3回目上映後八戸 BeFM プラッサ・ウーラ公開録音

【参加費】前売1000円／当日1200円／学割あり...主催者にお問い合わせください

【主催】もりもり Aomori 【問合せ先】山内／0178-22-3269／yam@hi-net.ne.jp

【関東】

●企画展「横浜から海を学ぶ—しんかい6500と深海の生物展」

場所：横浜みなと博物館特別展示室（横浜市西区みなとみらい）

展示期間：1月29日まで（月曜休館）

開館時間：午前10時～午後5時。

入館料：高校生以上100円、小中学生・65歳以上50円。

協力：海洋研究開発機構（横須賀市）

地球の表面積の約7割を占める海を横浜から学んでほしいと有人潜水調査船「しんかい

6500」のパネルなどを展示した。完成から20年が経過した「しんかい6500」のこれまでの活動などをパネルで紹介。このほか、深海に暮らす生物の映像（20分程度）などが見られる。平日は、しんかい6500や、深海の生物を模したペーパークラフトをつくる教室（午前11時～午後4時）を実施する。問い合わせは同博物館電話045-221-0280

●「自然エネルギー100%を目指す祝島の挑戦」議員会館集会

上関原発を立てさせない祝島島民の会（以下、「祝島島民の会」）では、2011年1月14日に、新しく「一般社団法人 祝島千年の島づくり基金」（会長：山戸貞夫）を発足させて、自然エネルギーで100%自立する島を目指すためのプロジェクトを立ち上げます。このプロジェクトは、持続可能な自然エネルギーをベースとする社会に向けて、日本や世界がエネルギーシフトをしてゆく先頭に立つものです。そこで、祝島が自然エネルギー100%自立に向けて、応援団が結成されます。様々な専門家がそれぞれの能力を出し合ってこの計画を全面的に応援していくこととなりました。つきましては、下記のとおり国会議員の皆様への報告会を開催いたします。多くの皆様に参加していただきますよう、よろしくお願いいたします。

- ・ 日時：2011年1月17日(月) 午後1時30分より2時30分
- ・ 場所：衆議院第二議員会館第1会議室
- ・ プログラム

○ 自然エネルギー100%自立を目指す祝島の挑戦

山戸孝（祝島島民の会運営委員および祝島千年の島づくり基金理事）

○ 祝島自然エネルギー100%への支援体制、とくに「1%for 祝島」基金のスタートについて

飯田哲也（環境エネルギー政策研究所 所長）

○ 上関原発建設予定地（長島・田ノ浦）の希少な自然と保護について

高島美登里（長島の自然を守る会 代表）

■主催：祝島自然エネルギー100%プロジェクトチーム（祝島島民の会内 担当：山戸孝）

TEL(携帯):090-5069-8848,FAX:0820-66-2110,E-mail:iwaishima@gmail.com

東京連絡先：090-9964-5024（担当：竹村）

■共催：上関原発どうするネット、長島の自然を守る会、原子力資料情報室ほか

●OWS 第54回海のトークセッション「海にすむ、星とキュウリとハリネズミ」

ゲストスピーカー：藤田 敏彦(国立科学博物館動物研究部研究主幹・東京大学大学院理学系研究科准教授)

星形をしたヒトデ、キュウリの形に似たナマコ、ハリネズミのようなウニ、姿や形は全く異なりますが、みな棘皮動物と呼ばれる動物の仲間です。棘皮動物とはどのような動物なのか、その不思議な形態や生態について紹介します。深海底をじゅうたんのようにお



おっているクモヒトデ、古生代の海に咲き乱れていたウミユリ、これら棘皮動物の多様な姿とその進化について、博物館の研究者が行っている調査や研究の様子も含めてお話したいと思います。

藤田 敏彦（ふじた としひこ）プロフィール

東京都出身。東京大学海洋研究所において深海生態学の研究で理学博士を取得。水産庁東北区水産研究所で底生魚類の研究に従事した後、国立科学博物館に勤務し、棘皮動物を対象として、系統分類学の研究を始めた。現在は、クモヒトデ類を中心として、日本周辺の深海底や東南アジア海域の珊瑚礁など、様々な環境に分布する棘皮動物の研究を進めている。著書に『ヒトデ学』、『潜水調査船が観た深海生物』など。棘皮動物の不思議さ面白さを広めたいと考えている。



開催日時 2011年2月2日(水)19:00~20:30 (18:30受付開始)

開催場所 モンベル渋谷店 5F サロン 渋谷区宇田川町11番5号 モンベル渋谷ビル

TEL 03-5784-4005 >>[地図](#)

参加費 800円 定員 40名程度(最少催行10名)

申し込み方法 電話(OWS 事務局 03-5960-3545) またはこちらの[フォーム](#)よりお申し込み下さい。

お申込み ▶▶▶

※キャンセルされる方は必ずご連絡ください。 >> [キャンセルフォーム](#)

●映画「ぶんぶん通信 No. 2」上映会

日時：2011年2月2日(水曜日) 開場 9:45 / 上映 10:10

場所：千葉県佐倉市井野 794-1 ([地図](#))

【会場】志津コミュニティーセンター視聴覚室 / 佐倉市井野 794-1

【参加費】400円

【主催】生活クラブ生協千葉下総ブロック 地球とからだにやさしいスローフードの会

【問合せ先】野坂 / 043-461-7868

●映画「祝の島」上映会

「祝の島」こたつ団らんツアー

映画『祝の島』をより日常に近い距離でご覧頂く上映ツアーです。この映画たくさんの方たちに届けたい、という思いから始まりました。上映機材はすべて持ち込み、スタッフが出張して上映する、映画の出前のような新しい試みです。

スケジュールは以下の通り

日時	場所	会場	問合せ先
1月16日(日) 13:00~	埼玉県越谷市	越谷生活館	090-8170-9674 (元木)
1月21日(金)	東京都世田谷区	気流舎	03-3410-0024

19:00～			(気流舎 加藤)
1月22日(土) 13:00～	千葉市中央区	Wi can	ちばで「祝の島」を観よう! 080-5056-3623 (坂井)
1月22日(土) 19:30～	千葉市美浜区	アースマーケット プレイス	ちばで「祝の島」を観よう! 080-5056-3623 (坂井)
1月23日(日) 10:00～	千葉市美浜区	幸町東県住集会所	ちばで「祝の島」を観よう! 080-5056-3623 (坂井)
1月23日(日) 16:00～	千葉市美浜区	『レオポックル』遊 び塾	ちばで「祝の島」を観よう! 080-5056-3623 (坂井)
1月29日(土) 13:10～	滋賀県 彦根市	滋賀県立大学交流 センターホール	0749-24-4461 (ひこね市民活動センター 山名)
1月29日(土) 未定	横浜市 港北区	綱島温泉東京園	080-7044-8011 (ひと∞ひと楽会・安在)

【中部・北陸】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 氷見

日時：2011年2月5日(土曜日) 開場 12:00 / 上映 12:30

場所：富山県氷見市北大町 7-6 ([地図](#))

【会場】ヒミングアートセンター / 富山県氷見市北大町 7-6

【参加費】1000円 【主催】特定非営利活動法人アート NPO ヒミング

【問合せ先】高野 / 090-3886-7669 / info@himming.jp

●「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 長野市

日時：2011年2月11日(金曜日) 開場 9:30、上映 10:00

場所：長野県長野市小島 804-5 ([地図](#))

【会場】東部文化ホール

【参加費】前売 800円、当日 1000円

【主催】わ!ながの 【問合せ先】小田切 / 090-4424-6509 / minz@mail6.alpha-net.ne.jp

【東海】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 静岡市

日時：2011年1月29日(土曜日) <昼の部> 開場 13:10 / 上映 13:30～15:45 / 監督トー

ク 15:55～16:40 <夜の部>開場 17:40／監督トーク 18:00～18:40／上映 18:50～21:05

場所：静岡県静岡市葵区御幸町 11-14 ([地図](#))

【会場】 サールナートホール／静岡市葵区御幸町 11-14

【参加費】 大人前売り 900 円／当日 1200 円、 中・高・大学生料金は主催者に

【主催】「ミツバチ」ブンブン上映実行委員会 【問合せ先】馬場／054-209-2021

【近畿】

●写真展「沖縄 うみさんぽ」

ジュゴン（人魚）の棲む沖縄の海を見に来て下さい。“基地ではなく保護区を”

日時：2011 年 1 月 27 日（木）～30 日（日）12:00～19:00

場所：カフェギャラリー 「カシオペア」吹田市千里山東 1-17-28

写真：牧志 治さん（辺野古・大浦湾をフィールドにしているフリーカメラマン）

入場無料

主催：ジュゴン保護キャンペーンセンター・関西事務所 info@sdcc.jp

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会＋鎌仲監督トーク in 大阪

日時：2011 年 1 月 22 日（土曜日）開場 13:30／上映 14:00

場所：大阪府高槻市紺屋町 1-2 ([地図](#))

【会場】 高槻市立総合市民交流センター／大阪府高槻市紺屋町 1-2

【参加費】 一般 999 円／高校生以下……主催者にお問い合わせください

【主催】高槻ドキュメンタリー映画上映委員会 【問合せ先】江川／072-672-2728

4. 事務局便り：

●この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。

●企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。

●このメールマガジンは、毎月 1 日と 16 日の 2 回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。

●このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。

- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

5. 編集後記

今年は大雪が各地で頻発しています。三八豪雪以来と言われる大雪になりそうですが、みなさまのところではいかがでしょうか。京都でももうすでに3回も積雪がありました。「海の生き物を守る会」では、雪に負けずに30日に講演会と写真展を開催して、スナメリ、ムツゴロウ、ジュゴンなどの棲む貴重な海を守りたいと考えています。30日の講演会は午後からですが、写真展は前回お知らせした予定を変更して、午前から開催します。ぜひお友達も誘い合ってご来場下さい。「海の生き物を守る会」の今年の活動開始です。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第72号

2011年1月16日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1

グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会